

水稻新品種「あきさやか」の品種特性と 品質、食味向上のための施肥法

農産研究所
筑後分場

1 背景、目的

米の良食味品種の要望が一段と強くなる中で、筑後地域ではモチ米、かけ米の販売の低迷に加え晩生の良食味品種が強く求められています。

このような背景のなかで、水稻晩生品種「あきさやか」が平成14年2月、本県準奨励品種に採用されました。そこでこの品種の特性を明らかにするとともに、平坦肥沃地における品質・食味を向上させるための施肥法を確立しました。

2 成果の内容、特徴

1) 「あきさやか」の品種特性

「ヒノヒカリ」に比べて、成熟期は15日程度遅い晩生種です。

稈長は短く、耐倒伏性は優れていますが、穂いもち病には弱い。千粒重はやや軽い、収量性は筑後地域でやや優ります。食味はやや優れ、「コシヒカリ」と同程度の良食味品種です。

2) 「あきさやか」の品質、食味向上のための施肥法

晩生熟期品種の10a当たり基準基肥窒素施用量7kgより2kg減じた5kg、穂肥は従来通りの3+2kgとすることで、安定して高い収量を確保でき、検査等級、食味が向上します。

3 主要なデータなど

表1 「あきさやか」の生育および収量

試験 場所	品種名	成熟期	稈長	穂数	倒伏	穂いもち	精玄 米重	千粒 重	検査 等級
		月・日	cm	本/m ²			kg/a	g	
農産	あきさやか	10.24	83	364	0.6	2.5	55.9	20.8	3.8
研究所	ヒノヒカリ	10.9	91	354	1.5	1.6	57.1	22.3	3.3
筑後	あきさやか	10.24	84	403	0.7	0.7	58.9	21.8	3.5
分場	ヒノヒカリ	10.8	89	381	1.1	0.4	56.0	22.6	3.6

注) 平成8～13年の平均。窒素施用量(基肥+穂肥+穂肥 kg/10a) : あきさやか 6～7+3+2、ヒノヒカリ 5～7+2.5+1.5
障害程度: 0(無)～5(甚)、検査等級: 1(1等ノ上)～9(3等ノ下)。

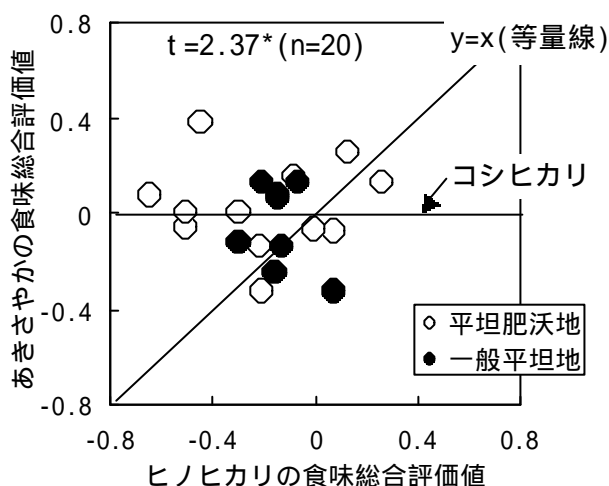


図1 「あきさやか」と「ヒノヒカリ」との食味の比較

注) 平成8～13年の奨励品種決定調査の試験場と現地試験の結果。

表2 「あきさやか」の施肥法と収量、品質、食味(筑後分場)

施肥法	m ² 当り 籾数	登熟 歩合	精玄 米重	千粒 重	倒 伏	検査 等級	食味 総合	外ハク質 含有率
Nkg/10a	x100粒	%	kg/a	g				%
5+3+2	346	85	65.6	22.2	0.4	2.8	+0.12	6.6
5+3+0	340	83	63.1	21.8	0	2.5	+0.19	6.2
5+2.5+1.5	328	85	62.0	22.1	0.3	3.0	0.00	6.3
7+3+2	382	78	66.7	21.8	0.8	3.8	-0.15	6.8

注) 平成11～13年の平均。施肥法: 基肥+穂肥1+穂肥2。